

「地域担い手サポートセンター」は、JAグループ山形が中心となり、県内各地に設置されている。今年からは、このサポートセンターが、JAグループ山形と連携して、園芸農業者への支援を強化する。

地域 担い手 サポ・センだより

JAグループ山形

「60歳からのアグリライフを応援します」「年金プラス園芸農業所得で、老後の健康や、より安定した生活と生きがいを求めてみませんか」

JAグループ山形は、2010年度から満60歳以上の農業者向けに園芸用小型機械の購入を支援してきた。「生涯現役支援プロジェクト」を強化し、今年から支援対象を拡大した。米政策の見直しが進む中、多様な担い手を地域ぐるみで、より幅広く取り込むことで分厚い「戦力」を確保し、園芸産地づくりを加速させるのが狙いだ。

園芸就農者向け小型機械購入助成

「生涯現役支援プロジェクト」では、県の園芸大国やまがた産地育成支援や産地パワーアップ、小規模稲作農家支援などの補助事業と協調し、採択された農業者団体の構成員のうち、満60歳以上の農業者の作業負担軽減を図る園芸用小型機械購入費を助成してきた。

1台100万円未満(税抜き)の小型機械購入費の3分の1を、10万円を限度に支援するもので、これまでネギ用などの管理機や肥料散布機、洗浄機、選別機、土壌消毒機など、助成件数は187件に上る。今年からは、この支援に「生涯現役支援プロジェクト」の拡大・強化による園芸産地づくり支援事業は16年度までの事業で、園芸産地づくりの取り組みに2分の1を支援している。この支援を受け、既に11の生産者団体がサクランボ「紅秀峰」の大苗化やミニトマト栽培などに取り組んでいる。所属する生産者は4300人を超え、今回の

60歳以上、より幅広く



「生涯現役支援プロジェクト」の拡大・強化をPRするポスター

「強化で新たに支援を受ける、JAなどに配ってプロダクトの積極的な活用を増やると見込まれる。JAグループ山形地域・担い手サポートセンターは「ポスト500」の問い合わせは最寄ポスト500枚を作成のJAへ。」